

カスミンボルドー®

■種類名：カスガマイシン・銅水和剤
 ■有効成分：カスガマイシン塩酸塩 ----- 5.7%
 [カスガマイシンとして ----- 5.0%]
 塩基性塩化銅 ----- 75.6%
 [銅として ----- 45.0%]
 ■化管法指定物質：ホリ(林シレン)=アルキフェニール (アルキ基の炭素数が9のものに限る。) [第1種] ----- 1.5%

■登録番号：第14625号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1981.06.10
 ■性状：淡緑色水和性粉末 63μm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：100g×100袋、500g×20袋
 1.25kg×10袋(北海道のみ)

【特長】

- 細菌性病害に卓効を示すカスガマイシンと、古くから病害防除に使用されている汎用性殺菌剤である銅剤（ドイツボルドーA）とを混合した薬剤。
- 予防、治療の効果をあわせもち、これら二成分が相乗的に効果を発揮する。
- 効力の持続性および耐雨性に優れ、安定した効果を示す細菌性病害防除剤。
- JAS法の有機農産物生産に使用可能。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	カスガマイシンを 含む農薬の 総使用回数	銅を含 む農薬 の総使 用回数
かんきつ (みかんを除く) みかん	かいよう病	1000倍	200~ 700ℓ /10a	収穫45日前まで	5回 以内		5回以内	
				収穫7日前まで				
なし	黒星病 花腐細菌病			収穫後 (10月~11月)	2回 以内		2回以内	
もも	せん孔細菌病、縮葉病	500倍		開花前まで	3回 以内		3回以内	
びわ	灰斑病、がんしゅ病	1000倍		幼果期まで				
キウイフルーツ	かいよう病、花腐細菌病	500倍		休眠期	4回 以内		4回以内 (樹幹注入 は1回 以内)	
				発芽後叢生期 (新梢長約10cm) まで				
いんげんまめ	かさ枯病			収穫30日前 まで	3回 以内		3回以内 (種子粉衣 は1回 以内)	
あずき	褐斑細菌病、莖腐細菌病			収穫前日まで	5回 以内	散布	5回以内	-
きゅうり	斑点細菌病、うどんこ病 べと病			収穫前日まで				
すいか	うどんこ病、褐斑細菌病 果実汚斑細菌病			収穫3日前まで				
メロン	うどんこ病、斑点細菌病 果実汚斑細菌病			収穫前日まで				
トマト ミニトマト	葉かび病、輪紋病 疫病、斑点細菌病 かいよう病、軟腐病	1000倍	100~ 300ℓ /10a	収穫前日まで	4回 以内		4回以内	
ピーマン とうがらし類	うどんこ病、斑点細菌病 斑点病			収穫7日前まで	3回 以内		3回以内	
キャベツ	黒腐病、軟腐病、黒斑細菌病			収穫前日まで	4回 以内		4回以内	
セルリー	軟腐病、斑点病			収穫7日前まで	3回 以内		3回以内	
ブロッコリー	黒腐病			収穫前日まで	4回 以内		4回以内	
だいこん	軟腐病、黒斑細菌病 ワツカ症			収穫14日前まで	3回 以内		3回以内	
ねぎ	軟腐病			収穫14日前まで	2回 以内		2回以内	
たまねぎ				収穫7日前まで	5回 以内		5回以内	
ごぼう	黒斑細菌病			収穫14日前まで	3回 以内		3回以内	

作物名	適用病害名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	加がマイシ ンを含む農薬 の総使用回数	銅を含 む農薬 の総使 用回数
レタス 非結球レタス	腐敗病、斑点細菌病	1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫 7 日前まで	4 回 以内	散布	4 回以内	—
なばな類	黒腐病			収穫 14 日前まで	3 回 以内		3 回以内	
にんにく	春腐病			収穫 7 日前まで	5 回 以内		5 回以内	
ばれいしょ	軟腐病	500～ 800 倍	3 回 以内	収穫 7 日前まで	4 回以内 (種いも 浸漬は 1 回 以内、植付 後は 3 回 以内)			
	疫病	800 倍						
てんさい	褐斑病	800～ 1000 倍	25 ㍓ /10a	5 回 以内	5 回以内			
		800 倍						
にんじん	黒葉枯病、軟腐病 斑点細菌病	1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	収穫開始 7 日前 まで	2 回 以内		2 回以内	
オクラ	葉枯細菌病				3 回 以内		3 回以内	
メキャベツ	黒腐病				収穫 21 日前まで		3 回 以内	
茶	輪斑病、赤焼病	500～ 1000 倍	200～ 400 ㍓ /10a	摘採 14 日前まで	2 回 以内	2 回以内		
	新梢枯死症(輪斑病菌による) 褐色円星病、炭疽病							
ばら	うどんこ病	1000 倍	100～ 300 ㍓ /10a	発病初期	6 回 以内	6 回以内		
ほおずき	軟腐病、斑点細菌病							
ゆり	軟腐病							
たばこ	疫病						100～ 180 ㍓ /10a	収穫 10 日前まで

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- 石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はさけること。
- 本剤は無機の銅を含むため、うり類、レタス、非結球レタス、だいこんに対して葉害を生じるおそれがあるので、下記の事項に十分注意すること。
 - ◆ 幼苗期又は生育の初期は特に発生しやすいので、中期以降の散布にすること。
 - ◆ 高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさけること。
 - ◆ 連続散布すると葉の周辺が黄化したりすることがあるので過度の連用をさけること。
 - ◆ 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、葉害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生じるので留意すること。
- てんさいに使用する場合は、葉害を生じるおそれがあるので所定の希釈倍数を厳守すること。特に高温時には葉害を生じやすいので朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で使用する。
- ばらに使用する場合は、葉に散布液の汚れが残ることがあるので注意すること。
- かんきつに使用する場合は葉害(スタメラノーズ)の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。特に果実の着生期の使用では厳守すること。
- ピーマンのうどんこ病防除に使用する場合は、発病後の散布は効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布すること。
- 核果類(ももを除く)、れんこん、白菜等には葉害を生じるおそれがあるのでかからないように注意して散布すること。
- キャベツに使用する場合は、品種、作型により葉害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用すること。
- いんげんまめ及びあずきに使用する場合は、高温時の散布は葉害を生じるおそれがあるのでさけること。
- 本剤を発芽後のキウイフルーツに使用する場合は、葉に軽い葉害を生じることがあるが、実用上の問題はない。但し、使用時期が遅くなると葉や果梗に実害を生じるので使用時期を厳守すること。
- びわに使用する場合は、果実に葉害を生じるおそれがあるので、幼果期(果実の横径約 1 cm)以降の散布はさけること。

- ももに使用する場合は、開花前までに使用すること。開花期以降は銅による葉害が生じることがあるので散布しないこと。
- ブロッコリーに使用する場合は、生育抑制や葉縁の黄白化等の葉害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
- にんにくに使用する場合は、葉に葉害を生じることがあるので、高温時（6月以降）の多数回散布はさけること。
- みずかけな（水掛菜）に使用する場合は、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- てんさいに対して希釈倍数200倍（使用液量25ℓ/10a）で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。